

氏 名 錦織 頼子
学位の種類 博士（医学）
学位記番号 乙第290号
学位授与年月日 平成24年11月7日
審査委員 主査 教授 森田 栄伸
副査 教授 富岡 治明
副査 教授 中村 守彦

論文審査の結果の要旨

創傷治癒は、急性炎症期、増殖期、リモデリング期に分けられ、その過程には様々な細胞や促進因子、抑制因子が関与している。癒痕部位ではマスト細胞（MC）数が増加しており、MCは癒痕形成における過剰線維化のトリガーとして機能することが示唆されているが、創傷治癒過程における役割の全貌は明らかでない。申請者は、創傷治癒過程におけるMCの役割を解明する目的で、マウスの熱傷創の治癒過程における、創組織内のMC分布密度ならびに炎症の諸指標の経時的変動を解析した。さらにMC欠損マウスと正常対照マウスとの比較検討を行った。その結果、正常マウス熱傷創では、増殖期（受傷14日後）からリモデリング期（受傷21日後）にかけて創辺縁部におけるMC数の著増とキマーゼ活性の上昇が観察された。また、創に集簇するMCにおけるbFGF、VEGF、TGF- β 1、キマーゼの局在が免疫染色にて確認された。一方、MC欠損マウスでは、上皮化は正常マウスと同様に進行したものの、増殖期からリモデリング期における線維増殖反応は抑制され、血管新生・血管消退の過程も遅延していた。また、MC密度、キマーゼ活性はいずれも低値のまま推移した。これらの結果から申請者は、熱創治癒過程の増殖期からリモデリング期において、MCは血管新生の調節および線維増殖反応に関与し、健全な治癒組織の形成に重要な役割を果たしていると結論した。本研究は、臨床現場から発生した疑問に答えるべく立案され、明確な実験計画により遂行され、創傷治癒におけるMCの新たな役割を明らかにしたものであり、学位の授与に値すると判断された。